

## 特集「ネットワークサービスと分散処理」の編集にあたって

谷口 秀夫<sup>1,a)</sup>

インターネットは1990年代を境にして、広く一般に普及し利用されるようになりました。インターネットに代表されるネットワーク技術は、今日では、様々な社会システムに欠かすことのできない技術として組み込まれており、現在も絶えず変化を続けています。たとえば、ネットワークに接続する端末の中で、直接、人が操作する端末の種類のみに着目した場合にも、PCや携帯電話、スマートフォン、さらにはウェアラブルデバイスといった多様化が進んでいます。そのため、これにともなった新たなネットワークサービスが現在も続々と登場しています。一方では、M2M (Machine To Machine) やIoT (Internet of Things) という言葉に代表されるように、センサやロボットといった人が直接操作しないデバイスをネットワークに接続するための技術の検討が進んだ結果、実空間とネットワーク空間を結び付けるためのサイバーフィジカルなネットワークサービスの検討も多くなされるようになってきました。

また、近年ではネットワーク上で扱う情報の変化も急速に進んできています。たとえば、情報の発信元に着目すると、かつて、情報はネットワークサービス提供者によって生成され、これをユーザが利用することがほとんどでした。しかし、近年では、ユーザ自身によって情報が生成され、サービスに利用されるCGM (Consumer Generated Media) の形態をとることも多くなってきました。SNS、ブログ等に代表されるCGMは、ときに爆発的な速度で情報が伝達されることもあり、最近ではこれまでは思いもしなかった社会現象を引き起こすこともあります。また、情報の量に着目した場合も同様に変化が進んでいます。すでに多方面でビックデータの重要性が叫ばれるようになっていますが、最近では政府等の公の機関が保有する膨大なデータを積極的に無料で公開するオープンデータの検討も進んでおり今後もさらに情報の量は爆発的に増加すると予想できます。

このような背景をもとに2013年度は「ネットワークサービスと分散処理」というタイトルで論文誌特集号を企画し、既存の分散処理とネットワークの研究分野にとどまらず、萌芽的な研究、アプリケーション分野での横断的な研究、新サービス提供のための技術的研究、安心安全を担保する研究および新しい基盤技術の研究について広く論文募集を

行いました。

この論文誌特集号では、主として情報処理学会「マルチメディア通信と分散処理」研究会の主査、幹事、研究運営委員会を中心に編集委員会を構成しました。特集号には50編の論文が投稿され、2013年3月、5月、7月、9月に開催された編集会議において慎重な審議を経たうえで、31編の論文が採択されました(採択率62%)。採択された論文は、タスクスケジューリング2編、ネットワークアーキテクチャ5編、無線・モバイルネットワーク3編、ネットワークサービス7編、モバイルコンピューティング6編、ITS3編、ネットワークセキュリティ3編、Webインテリジェンス2編の合計31編となっており、いずれの論文も将来のネットワークサービスの実現に必要な様々な研究課題に対する解決策が議論されています。本特集が「ネットワークサービスと分散処理」に関する研究分野の発展に貢献することを切に願っています。

最後に特集号の企画・編集、論文の査読・採択に尽力いただいた幹事の重安哲也氏をはじめ特集号編集委員会の編集委員の皆様は厚く御礼申し上げます。

「ネットワークサービスと分散処理」特集号編集委員会

- 編集長  
谷口秀夫 (岡山大学)
- 幹事  
重安哲也 (県立広島大学)
- 編集委員 (五十音順)  
安達直世 (関西大学), 稲村 浩 (NTTドコモ), 上原稔 (東洋大学), 勝本道哲 (勝本総研), 加藤由花 (産業技術大学院大学), 金井 敦 (法政大学), 木谷友哉 (静岡大学), 串田高幸 (日本アイ・ピー・エム), 後藤真孝 (東芝), 小西 琢 (NEC), 笹井一人 (東北大学), 佐藤永欣 (岩手県立大学), 佐藤文明 (東邦大学), 重野寛 (慶應義塾大学), 白石 陽 (公立はこだて未来大学), 田上敦士 (KDDI研究所), 寺西裕一 (NICT), 中嶋卓雄 (東海大学), 乃村能成 (岡山大学), 野呂正明 (富士通研究所), 檜垣博章 (東京電機大学), 廣森聡仁 (大阪大学), 藤田 茂 (千葉工業大学), 山中仁昭 (広島国際大学), 横山和俊 (高知工科大学), 吉廣卓哉 (和歌山大学)

<sup>1</sup> 岡山大学工学部  
Faculty of Engineering, Okayama University, Okayama 700-8530, Japan

<sup>a)</sup> tani@cs.okayama-u.ac.jp